

# 観光 +α を考える インバウンド観光振興に向けた

特集

# 「自転車観光」の可能性

道内経済において、極めて重要な「インバウンド観光」推進に向け、新たな観光資源の発掘、育成への取り組みについて紹介する

表1 訪日外国人来道者数(実人数)の推移

資料:北海道経済部観光局

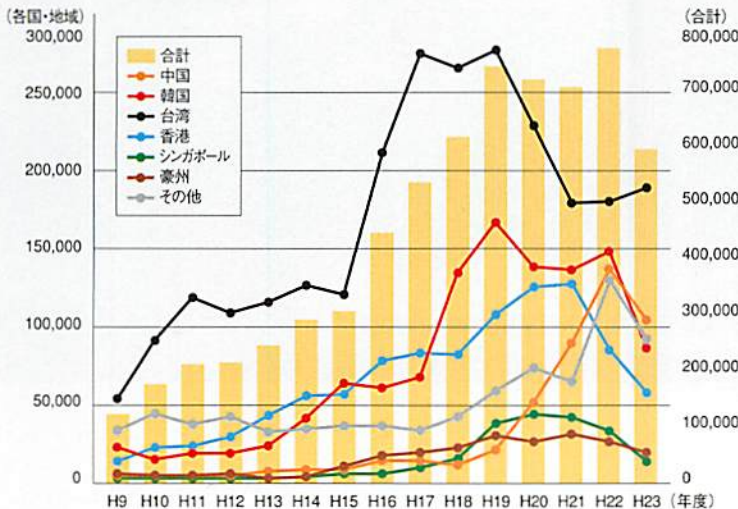


表2 新千歳空港発着国際線(平成24年11月現在)

路線名	会社名	就航状況
1 ユジノサハリンスク	サハリン航空	週2往復
2 釜山	大韓航空	週3往復
3 ソウル(仁川)	大韓航空/日本航空	毎日運航
	ジンエア	週4往復
4 北京	中国国際航空/全日本空輸	週3往復
5 上海	中国東方航空/日本航空	週5往復
6 台北	エバー航空/全日本空輸	毎日運航
	チャイナエアライン	毎日運航
	復興航空	週2往復
7 グアム	ユナイテッド航空/全日本空輸	週2往復
8 香港	キャセイパシフィック航空/日本航空	週4往復
9 ホノルル	ハワイアン航空	週3往復
10 バンコク	タイ国際航空	週3往復

## 海外観光客が増加するHOKKAIDO

国においては、強みを生かす成長分野の一つとして「観光立国の推進」を位置づけ、インバウンド振興を観光政策の重要課題として挙げている。そのような中、北海道は、雄大で四季折々な自然や、海や大地が育む食材など、多様な魅力を有する観光地として国内のみならず、海外からも高い評価を得ている。

北海道は平成二十三年度の訪日外国人人数が、五十六万九千七百名と、全国の約一割を占める。しかしながら、本年九月の尖閣諸島の国有化に端を発した日中関係の悪化により、道内においても、中国人観光客の激減などにより大きな影響を受けている。当所が九月から十月にかけて実施

した「中国人観光客入込状況に関する緊急アンケート」では、平時に中国人観光客の利用がある六割超の企業において「予約のキャンセルが出ている」と回答しており、「予約の八割以上がキャンセル」といった回答も多く見られた。

このようなことから、今後は、中国や韓国との関係修復を期待するだけではなく、新たなインバウンド観光市場の開拓を図ることも求められる。こうした中、十一月には新たな国際線が就航したことは追い風だ。

タイ国際航空の新千歳—バンコク線の就航により、今後は、タイのみならず、周辺のシンガポールなど東南アジア諸国からの来道客もますます増えそうだ。

また、ハワイアン航空の新千歳—ホノルル線の就航により、北海道からハワイへの渡航の利便性が高まったが、今後は北海道の観光情報を積極的に発信し、訪日旅行の需要を喚起することが必要だ。

さらに、LCCについても、現在、新千歳—ソウル(仁川)の韓国線が就航しているが、北海道へのアジア観光客の増加に伴い、今後、アジア方面からの国際線LCCの増加も期待される。





## 新たな観光素材の 創出が必要

インバウンド振興においては、海外観光客を受け入れるための国際線の拡充など、観光基盤整備に加え、観光メニューの充実が不可欠である。

道内においても、インバウンドの促進に向け、さまざまな観光スタイルの構築や環境整備などの取り組みが進められている。

大きな集客が見込まれる取り組みの一つとしては、国際会議や、展示会・見本市などのビジネスイベント「MICE」の積極的な誘致・開催の推進が求められる。

一方、最近注目されているのが、観光とほかの産業を組み合わせた新たな観光旅行の創出だ。例えば、観光と医療を組み合わせた「医療観光」、農業と観光を組み合わせた「農業観



光」、北海道産の化粧品などホワイトコスメを活用し、美容と観光を組み合わせた「美容観光」などだ。

これらについては、関連産業への幅広い波及効果が得られることから、今後、インバウンド振興を図る上でも、発掘し育成することは急務となっている。

## 北海道の自然環境を最大限生かした 「自転車観光」に注目

そのような取り組みの一つとして、自転車を観光ツールとした「自転車観光」が注目を集めている。

その理由に、北海道の広大な地形と爽やかな気候、砂利道などがない舗装された走りやすい道路などが挙げられる。また健康志向や、環境意識の高まりなどにより、自転車に対する移

動手段としての価値が見直され、自転車人口が増加してきていることも一因だ。

### オール北海道で 「自転車観光」を 盛り上げる取り組み

こうした動きに、当所では、北海道商工会議所連合会や、北海道開発局、さらには関連団体・企業と連携し「サイクルツーリズム北海道推進連絡会」を立ち上げ、北海道の自転車観光の推進に取り組んでいる。

本連絡会は、サイクリングを北海道の新たな観光資源として位置づけ、サイクリングに関する受け入れ環境の整備とプロモーションについて、各市町と連携を図り、北海道が丸となって中長期的に観光客の誘致に取り組むことを目的としている。



北海道の広大な土地を背景としたサイクリングロード



十一月二日〜四日に千葉県幕張メッセで開催された「CYCLE MODE INTER-NATIONAL 2012」では、初めて道内の各自治体や関連団体が合同でブース出展した。

期間中、道内のサイクリングロードなどを掲載したパンフレットを配布しPRしたほか、来場者へのアンケート調査を行うなど、今後の情報収集を図った。

アンケートでは、北海道のサイクリングで期待することとして、「広く走りやすい道路でのロングライド」や「自然観賞」「温泉」などの回答が多く、「北海道でサイクリング旅行をしたことが無いが行ってみたい」と回答した方は全体の約七割にも上り、関心の高さがうかがえた。



「CYCLE MODE インターナショナル2012」出展ブースの様子



全道のサイクリングロードなどを掲載したパンフレット

### 「非日常」を体感 海外からの関心が 急激に高まる

「サイクル・ツーリズム北海道推進連絡会」の一員で、現在、国内外からの観光客向けに、道内の観光サイクリングガイドを行う、サイクリングフロンティア北海道の石塚裕也代表は、道内の自転車観光を担う第一人者だ。

サイクリングのプロのロードレーサーとして実業団活動を行いながら、札幌市内をガイドしながら走る「ペロタクシー」のドライバーを務めるうちに、サイクリングと観光ガイドの可能性を感じ、平成二十一年に同社を立ち上げた。石塚氏は、北海道のサイクリングの魅力について次のように語る。

「まず、道路の整備状況がすばらしいです。交通量の少ない道路でもこれほど広くてきれいに整備されているのは、世界的に見ても北海道だけだと思います。とにかく走りやすいです」といふように、幹線道路から外れた脇道に入っても安全で走りやすい道路が整備されていることで、コース設定も多彩に造ることができると特徴だ。

また、サイクリングコースの沿線にあるローカルな観光施設やレストランなど、まだ「目の目を見ていない」「隠れたこだわりの施設や、お店の発掘も魅力の一つと語る。

サイクリストが立ち寄りのお店として話題となり、注目を集めて繁盛店となるなど、サイクリングコース沿線施設などへの経済波及効果も期待されている。同社へのサイクリングツアーの申し込み状況としては、昨年は東日本大震災の影響もあり低迷したものの、今年



サイクリングフロンティア北海道 代表 石塚裕也 氏

に入りインターネットや口コミなどで広まったことで急増しており、九月〜十月にかけては、香港からの約三十名の団体三組を何日間かかけてガイドするなどの動きも出ている。

参加者からは「開放感溢れる北海道の自然の中を、気持ちよくサイクリングできるのが最大の魅力」と大変好評だ。

また「サイクリングは、ラフティングなどのほかのアクティビティに比べ、リピート率は高いと思います」と語るように、年に数回サイクリングのために来道する方もいるとのことだ。

石塚氏は、今シーズン、国内外の観光客約五百名以上のガイドを行った。海外からのニーズも予想以上に高いと実感しており、ガイドの依頼があっても、ガイドの手配が追いつかず、やむなく断ることも多々あったという。



香港からの団体が参加したサイクリングの様子



## 冬のスキーに加え、夏の「自転車」に向け 企業・人材の育成が必須

このような盛り上がりの中で、石塚氏は「今後、自転車観光を冬のスキーと並ぶ道内観光の柱にしていきたいためには、ガイドやインストラクター、受け皿となる業者の育成は必須」と語る。

そのような中、今年度、サイクリングツアーに取り組み業者などで組織する「NPO法人サイクリングツアー協会」を立ち上げた。

同協会では、安全でしっかりとしたサービスを提供できる業者を広く周知するとともに、加盟する業者、ガイドの育成にも取り組んでいる。

サイクリングツアーを行う道内の業者はまだまだ小規模で、海外などからの大きな団体のガイドツアーの受け入れに関しては、単独で受け入れるのは難しいのが現状だ。そのため、同協会加盟業者がタッグを組んで受け入れを行うことで、サービスの質を保つとともに、ツアー客の取りこぼしを抑えるのも目的だ。

「今後、道内の自転車観光はますます増加することが予想されます。しかし、駐輪場の問題、自分の自転車を道外から運んでくる際の輸送の問題など、

解決すべきことは多いです。ただ、今回さまざまな関連団体が組織された連絡会は、そういった課題をみんなで検討していく場として、大変重要だと思えます」と、今後の道内における自転車観光の振興に向け、石塚氏は意欲的だ。

## 新たなインバウンド型 旅行商品の必要性

旅行業界からも自転車観光が、これからの北海道観光の中で持続していくツアーの一つと期待する声が挙がっている。

(株)日本旅行北海道 国際旅行事業部 樋笠一馬次長は、「これまで中国系の現地旅行代理店は、大量の観光客を北海道に連れてきて、さまざまな観光施設を訪れる、言ってみれば「広く浅く」



(株)日本旅行北海道 国際旅行事業部次長 樋笠一馬 氏

く数をこなす」ツアーが多く見受けられました。しかし、今後は、北海道の魅力をより理解してもらいたい本当の意味でのリピーターとなってもらえるようなサービスが求められます」と、これまでの海外観光客向けツアーに危機感を持ち、新たな取り組みの必要性を語る。

樋笠氏の言う新たな取り組みとは、北海道の最大の長所である広大な自然景観を、より近くで感じながら楽しむことだ。

「海外観光客は、北海道の景観、特に農業景観などに魅力を感じています。



農業景観を満喫する海外観光客

そのような景観をバスの中から眺めるのではなく、より身近なところで感じてもらおうのに自転車は最適です」と語る。シンガポールや台湾の旅行会社からも、道内でのサイクリングツアーへの関心が多く寄せられるなど海外からの注目も徐々に増してきている。

## 自転車観光マップの整備と受け入れ基盤整備にに取り組む

当所では、「サイクル・ツーリズム北海道推進連絡会」を通し、来年度には、自転車業界、ガイドなどの受け入れ施設との連携、自転車輸送などの利便性向上、自転車輸送に伴うレンタカー会社や、駅、ホテルなどの受け入れ先の整備に取り組むほか、引き続き国内外でのプロモーションによる北海道の「自転車観光」知名度向上に取り組む予定だ。

### 本事業へのお問い合わせ

#### サイクル・ツーリズム

#### 北海道推進連絡会 事務局

札幌商工会議所 部会・産業部観光課

☎ 〇一―二二三―一―三六九